

27年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

“人間形成の土台づくり”が、学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”へとつながるように、子ども達の遊びや生活を通じた教育活動を行います。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園児の入園から就学前までを見通し、「写真で見る教育課程」を編成する。また、指導計画の充実に向け、領域研究を行うなど、教育内容の改善につとめ、個々の資質向上に主体的に取り組む。
- ・幼児の遊びや生活の中に学びや育ちを保証するため、教育目標、建学の理念と教育要領とのマッチング、積極的な研修の受講、さらには自己評価を継続的に実施する。
- ・生活や遊びの中で建学の理念、教育要領が生きていることを広く説明し、小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育の実践と発信をする。
- ・幼稚園と家庭が連携して教育効果を高めることで、子ども達を預かる幼稚園から子ども達が育つ幼稚園をめざす。
- ・地域や系列校との連携策について検討し、日頃接することが少ない年代の方々と交流を深めることで園児の生活の幅を広げ、今後の成長に繋げる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	教育目標、建学の理念と教育要領の接点を求め、子ども達の実態に基づく「写真で見る教育課程」を編成するため、教職員間で情報交換を行いながら、共通理解が持てるよう全員で取り組んだ。
建学の理念、教育要領、教育課程、子どもの実態等を基に指導計画を作成する。	昨年同様、教育目標、建学の理念と教育要領の接点を基に、各項目に対する指導計画を学年ごとに作成した。また、指導計画は子ども達の実態を踏まえ、日々各学年の担当教員が意見交換をしながら、学びや育ちを保証できるものとなるよう、学期毎の子どもの姿を「写真で見る教育課程」として作成した。文字ではなく、視覚に訴えることで、個々の資質向上につながった。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させる研究会等へ積極的に参加し、教員一人ひとりの資質の向上に努める。	教職員間での園内研修に役立てるため、研修会等へ積極的に参加した。研修で学んだ内容は園内研修で積極的に報告し、毎日の保育の参考となる情報を共有できるようにした。また、支援を要する子どもについての研修会は、個別の指導計画の作成等に役立てた。各行事の打合せ及び反省

	<p>会や、園児に対する情報交換は日頃から行い、共通理解を深めることで、見通しを持った保育を実践することができた。</p>
<p>園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>保護者との懇談、参観や学年親睦会などを定期的を実施し、子ども達の学びや育ちを保護者に伝えた。さらに子育てサロン、絵本講演会等の行事とキンダーカウンセリングとのコラボ等で保護者の思いや考えを受け止める機会を設けるなど、丁寧に対応した。</p> <p>なお、公式WEBサイトの運営は、保護者会広報部と連携し、個人情報の管理に配慮しながら、在園児の保護者だけでなく、一般の方にも園の教育活動に興味を持っていただけるように工夫し、日常の様子、行事や園外保育の様子、保護者間で実施されたイベントの報告等を行った。またWEBサイトにおけるシステムの改修を行い、よりタイムリーに情報が提供できるよう改善を行った。</p> <p>谷学ネット（携帯電話を利用したメール配信システム）を利用し、行事予定や天候急変時の緊急連絡等を発信することで、保護者に情報を的確に周知することができた。</p>
<p>安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）</p>	<p>園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。</p> <p>複合遊具については、設置後 20 年が経過し、劣化が著しいことから、安全確保のため保護者会の協力を得て新しく設置した。</p>
<p>地域・系列校との連携</p>	<p>地域との連携については、幼稚園行事（夕涼み会、敬老会）などを通じて、地域住民の方に対し、園児が思いやりの気持ちを持つことができるよう意識づけるとともに、幼稚園の取組み内容、行事等への理解が得れるよう努めた。</p> <p>近年一部の行事については、予想をはるかに上回る参加人数となっているため、安全に配慮した行事運営については、今後も法人本部と協議を行う。</p> <p>系列校との連携保育として、昨年度に引き続き大阪女子短大幼児教育科との連携保育（保育実習）を実施した。大阪商業大学高校との連携保育では、園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を昨年引き続き実施した。更に大阪商業大学とは、恒例となっている 11 月の大学祭において年長組が制作した絵画を展示した。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・全教職員が学校評価の主旨を理解し、各自が適切に自己点検、自己評価に取り組む必要性を強く感じた。
- ・研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、情報を共有できた。
- ・多様な子供に対応するため、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践し、さらなる教職員の資質向上をめざす。
- ・家庭と協力して教育をしていくことが賢い子どもを育てる秘訣であることを認識し、保護者との連携を密にする。
- ・公式WEBサイトのシステム改修さらには積極的に外部への情報発信を行い、保護者だけでなく、一般の方にも幼稚園の教育内容を理解していただけるよう努めた。
- ・写真で見る教育課程編成に取り組み、子ども達の育ちや学びを全教職員が写真から読み取る難しさと解りやすさを共有した。
- ・複合遊具を設置したことで、あらたな学びや育ちの素をちりばめた環境を構築することができた。
- ・地域や系列校との連携は、園児の生活の幅を広げ、心の成長に繋がった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者ニーズの把握と建設的なコミュニケーションのあり方を検討する	引き続き建学の理念に基づいた教育に十分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を、保護者との懇談会や保育参観、担任等を通じて把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎とする。また、公式WEBサイトを用いたタイムリーに情報を発信することで、保護者との連携を強化し、教育内容を深める。 在園児保護者を対象とした保育参観は定期的に開催し、日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設ける。父親など男性が参加できる行事については、一層の定着をはかり、より充実した教育が展開できるよう企画・実施する。
教育力向上への取り組み	「写真で見る教育課程」を活用し、見える教育と見えない教育をあきらかにする。 園内研修の強化と研修会(学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学・大学課人権、大私幼プロジェクト、ちやいんどネット他)へ積極的に参加することで、教員一人ひとりの教育力のレベルアップにつなげる。また、その成果を自己評価から学校関係者評価へとつなげる。毎年度末に実施している全日私幼研究機構が作成した自己評価に基づき、各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックすることで、個人の問題点があれば幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かすようにする。

課 題	具体的な取り組み方法
<p>安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立</p>	<p>震災や津波、ゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、園内の避難経路について確認するとともに、教員が各自の役割分担を自覚し、学期毎に実施する避難訓練に臨む。安全管理マニュアルについては、状況に即して定期的に更新する。</p> <p>引き続き地元の布施警察署（生活安全課）と連携し防犯訓練を実施し、防犯意識の向上を図る。また、近隣の東大阪西消防署から火災予防に対する心構えや注意事項などについて話を聞く機会を設け、より良い防災・防犯体制を構築する。</p> <p>更に、法人本部危機管理担当とも連携し、園児が安心して幼稚園生活を送れるよう、大学警備員との連携も図りながら、園周辺の定期的な巡回指導、危険個所を把握する等、幼稚園の教職員と情報を共有するよう努める。</p>
<p>特別支援教育の充実</p>	<p>近年増加している支援を要する子ども達へのアプローチについては、専門家の話を聞き、実践に結びつける必要がある。そのため、キンダーカウンセラーとの年3回の教職員研修は継続して実施する。</p> <p>積極的に外部研修会に参加し、内容を園内研修で報告することで情報共有を図る。</p> <p>子育てサロン等を通じて広く保護者に情報提供する機会を設けるとともに、保護者と連携して、一人ひとりに合った対応ができるように個人カリキュラムを作成し、対応する。</p> <p>子ども達の発達や遊びの様子を把握し、保護者に適切なアドバイスをする役割を担うキンダーカウンセラーと連携し、多様な保護者への対応、特別支援の取り組みを実践する体制を整える。また、個別のカウンセリングだけでなく、従来から実施している保護者を対象とした行事とも連携し、保護者に対し、子どもへの「気づき」を促すような取り組みを継続して行う。</p>
<p>地域・系列校との連携</p>	<p>幼稚園の活動内容、行事等への理解を得るべく、幼稚園行事などを通じて積極的に働きかけ、相互理解を深める。また、系列校との連携策として、28年度も大阪女子短期大学を訪問し、幼児教育科の学生との触れ合いを中心とした保育連携を実施し、緑あふれるキャンパスの自然環境に触れる。また、例年実施している大阪女子短期大学幼児教育科連携保育（保育実習）の受け入れ、大阪商業大学の施設利用、学園祭での年長組の作品展示や大阪商業大学高等学校体育祭への参加やデザイン美術コースとの連携による木製パズル制作を行う。</p>

子ども・子育て支援新制度への対応	<p>「子ども・子育て支援制度」における「認定子ども園」への移行については、研修会への積極的な参加及び東大阪市さらには近隣幼稚園への聞き取りを行うことで情報収集を行う。</p> <p>特に移行した場合の教育体制については慎重に確認したうえで、コスト、施設設備等の状況も調査し、移行可否かの検討を行う。</p>
------------------	--

6. 学校関係者よりの意見

<ul style="list-style-type: none"> ・住宅事情などでペットを飼えない家庭も多いので、幼稚園でうさぎやインコ等と触れ合ったり、当番活動と共にお世話ができるのでありがたい。 ・園庭は、池があったり、花や木々で季節を感じられるような工夫がされている。実際に作物を育て収穫できるだけでなく、クッキングに繋げるなど、子ども達にとって良い環境である。 ・ボール運動等で大学の施設を使用したり、系列校の高校生や大学生とのふれあう場面が用意されており、子ども達も喜んでいる。附属ならではのメリットを生かしていると思う。 ・お昼休みのチューリップ文庫(絵本読み聞かせ)のおかげで、本への興味が強くなり「知りたい」という好奇心が旺盛になったり、本を借りる、読んでもらうから「自分で読む」という習慣づけとなったりして、今後の育ちに期待ができる。 ・生活の中で、けん玉、こま、すもう、カルタ等、日本の伝統的な遊びに触れている。大切なことだと思う。 ・クラス担任以外の先生方も子どもの名前だけでなく、性格なども、把握してしてくれるため、安心感がある。子どもが安心して生活を送れるよう配慮が行き届いている。卒園してからも幼稚園の教職員全員が「お帰りなさい」と気軽に声をかけて頂ける。 ・子ども達が自分で考え、話し合い、一つの事柄についてみんなで作りあげていく保育を目指している過程があり、絵を描く時も、描き方を教えるのではなく、一人ひとりの考えをひきだす保育を大切にしている。 ・一つひとつのイベントも、子ども目線で取り組まれているので、子ども達の成長がよくわかる。 ・教職員の保育姿勢として、子ども達が大きなケガにならないように注視しながらも、子ども達の姿を受け止めダイナミックな遊びをさせてくれる。 ・参観、懇談会や、子育てサロン等では、保育中の子どもの姿をエピソードを通して知ることが出来るので保護者としても新たな発見や感動があり毎回楽しみにしている。 ・夏休み等の保育センターの予約の日時の幅を検討して欲しい。急な用事で利用をしたい時に出来ないことがないように工夫してほしい。 ・教職員による1日の始まりは、開園前の安全点検(園庭掃除、遊具点検)、朝礼(連絡事項等)の時間とするなど工夫をして、子ども達の登園時刻(8:30～)につなげてほしい。 ・教職員のまとまりや、モノを大切にしている事等は今後も続けてほしい。 ・子ども達がのびのびとしている点は、評価できる。他の行事や式典なども節度ある態度や振る舞いも「けじめ」として子ども自身が自覚してできる教育を続けてほしい。 ・教職員全員が、元気で明るく、さわやかな笑顔で対応しており、クラスを超えて園児を観察していることから微細な変化にも対応している。 ・親子ふれあい、敬老の集い等の行事を企画し、在園児保護者(特に父親等の男性)が参加できるようにしていて、日常の園児の様子を紹介できる機会を作っている。 ・年に3回避難訓練を企画実施しており、教職員に対し危機感をもって対応するように指導されており、園児に対しては「自分の命は自分で守る」と園児個々に考えさせるように指導している。また、隣接の大阪商業大学高校と連携を密にとり、突発事案発生時の避難場所として協力依頼している。

・教職員が少数であることから、行事の開催時に防犯体制が手薄にならないようにしまわないように、教職員間での連携を密にし、教職員個々の目的・行動を共有して取組んでもらいたい。

以上のことを具現化、継続するべく、各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。